


在外研究員研究報告書

2018年12月3日 受付

所 属	商学部		氏 名	河合 隆治		
職 名	准教授					
研究課題名	欧米における組織間管理会計に関する研究					
研究期間	2016年 9月 1日 ~ 2018年 3月 31日					
滞在期間 ・滞在地 研究調査先	滞在期間		滞 在 地		研究・調査先	
	2016年9月1日～2017年3月31日		メルボルン・オーストラリア		University of Melbourne	
2017年4月1日～2018年3月31日		アムステルダム・オランダ		Vrije Universiteit Amsterdam		
研究費	306万6000円		研究成果の概要		別記 4,000字程度	
発 表	題 目 名		発表学術誌名Vol. No.		発行年月日	
	① Contracting abroad: A comparative analysis of contract design in host and home country outsourcing relations		Management Accounting Research, Vol. 40		2018年9月	
	② The interfirm contracting value of management accounting information		Journal of Management Accounting Research		2018年2月14日 (アメリカ会計学会のホームページ内のOnline Early digital libraryに電子版掲載)	
	著 書 名		発 行 所 名		発行年月日	
	演 題		講 演 学 会 名		講演年月日	
	The interfirm contracting value of management accounting information (※①、②、②ともに同一論題)		①American Accounting Association ②European Accounting Association ③ Asia-Pacific Management Accounting Symposium		2017年1月7日 2017年5月11日 2017年7月6日	

在外研究成果の概要

商学部准教授

河合 隆治

研究課題名：欧米における組織間管理会計に関する研究

研究期間：2016年9月1日～2018年3月31日

在外訪問先：University of Melbourne, Faculty of Business and Economics, Department of Accounting (2016年9月1日～2017年3月31日)

Vrije Universiteit Amsterdam, School of Business and Economics, Department of Accounting (2017年4月1日～2018年3月31日)

本研究の目的は、組織間管理会計における世界の学術的潮流および企業実践について把握することであった。具体的には、欧米で近年大きな進展がみられる組織間管理会計に関する研究蓄積について文献を基礎として整理すること、オーストラリアおよびオランダにおいて、世界をリードする管理会計領域の研究者と議論することを通じて、組織間管理会計に関する最新のトピックスについて情報収集を行うこと、ヨーロッパにおける組織間管理会計の実態について調査を実施することを計画した。

以下では、University of Melbourne（オーストラリア）ならびに Vrije Universiteit（オランダ）滞在中における研究活動とその成果について記述する。

University of Melbourne における在外研究

University of Melbourne においては、会計領域で評価の高い国際学術雑誌に多くの論文を掲載してきた Anne M. Lillis 教授が受け入れ教員であった。Lillis 教授とは面識はあったものの、Melbourne を訪れるのは初めてであり、新たな研究ネットワークの構築から着手する必要があった。

Visitor として籍を置いた Department of Accounting には、他にも、管理会計領域で数多くの業績を出している、Margaret Abernethy 教授、Naomi Soderstrom 教授、Jennifer Grafton 准教授といった世界をリードする研究者が在籍していた。さらに、Department of Accounting が主催する Melbourne Accounting Research Seminar (MARS) は、会計領域において世界をリードする研究者を招聘し、彼らのワーキングペーパーについて発表がなされた。一流の研究者に囲まれた恵まれた環境において、毎日緊張感を持ちつつ、自身の研究を進め、そのアイデアについて意見交換をすることができた。この他にも、メルボルンに同じく存在する、Monash University の Department of Accounting が主催する管理会計領域の研究シンポジウムである MONFORMA にも参加した。

こうした研究者との意見交換が反映された成果の一つとして、Henri Dekker 教授 (Vrije

Universiteit Amsterdam) と坂口順也教授 (名古屋大学) との共同研究で進めてきた、“Contracting abroad: A comparative analysis of contract design in host and home country outsourcing relations” が挙げられる。この論文は、管理会計領域の有力な国際学術雑誌の一つである *Management Accounting Research* 誌に受理された。概要は以下のとおりである。

国境を越えたビジネス関係は、国内におけるビジネス関係よりも協同活動を管理するにあたって情報の非対称性や複雑性が増すために、重大なリスクが伴うことがよくある。しかし、国境を越えたビジネス関係に関する契約設計についてはほとんど知られていない。そこで私たちは、国境を越えた共同活動の特徴がよくあらわれる形態、すなわち、進出国における戦略的アウトソーシングについて検討し、国内における同様の戦略的アウトソーシングにおける契約上の選択と対比する。私たちは、オランダにおいて活動し、アウトソーシングを行っている日本企業の子会社、ならびに、日本においてアウトソーシングを行っている日本企業から質問票データを回収した。本論文の結果では、進出国におけるアウトソーシング契約と国内におけるアウトソーシング契約に関する複雑性の程度は変わらなかった。しかし、私たちが仮説で設定したとおり、進出国における契約は、国内における契約に比べ、契約期間が短く、契約更新に関する事項が多く記述され、契約にかかるコストが比較的高かった。

また、University of Melbourne 滞在中に、後述する “The interfirm contracting value of management accounting information” というワーキングペーパーを Dekker 教授と坂口教授とともに書き進め、2016 年 11 月に行われた Department of Accounting に設置されている Management Accounting Brown Bag Seminar で発表し、多くの重要なコメントを得ることができた。加えて、この論文を 2017 年 1 月にプエルトリコで開催された American Accounting Association (アメリカ会計学会) の Management Accounting Midyear Meeting や、Zeng Wei 講師によって招聘された Australian National University (オーストラリア) の Research School of Accounting が主催する研究セミナーにおいても発表を行った。

研究課題とは少し外れるが、University of Melbourne では、さらに、インターネットや動画教材を用いた世界最先端の教育方法を用いた講義である Strategic Performance Management を見学することができた。Strategic Performance Management では、受講生は Kilgors という仮想企業に対する提言を行うコンサルタントの立場から、Kilgors 内の経営陣や業務担当者が発するメッセージの動画を参照しながら、Kilgors における資本予算の意思決定や Balanced Scorecard と呼ばれる業績管理システムに組み込む業績指標について検討を行う。この講義は、本学で過年度担当した「戦略管理会計」の講義内容と類似するために、コーディネーターである Albie Brooks 准教授から内容についての詳細を聞くとともに、この教育方法に関する共同研究を進めていくこととなり、継続的に議論を進めて

いる状況にある。

Vrije Universiteit Amsterdam における在外研究

Vrije Universiteit Amsterdam では、以前より共同研究を進めている Dekker 教授が受け入れ教員であったために、ある程度研究プロジェクトが固まっていた。Vrije Universiteit Amsterdam においては、主に 3 つの研究プロジェクトに着手した。

第一に、前述した “The interfirm contracting value of management accounting information” に関する研究プロジェクトである。University of Melbourne 滞在時における研究セミナーや学会での発表のコメントに加え、2017 年 5 月にスペインにて開催された European Accounting Association (ヨーロッパ会計学会) の Annual Congress や 2017 年 7 月にソウルにて開催された Asia-Pacific Management Accounting Symposium (AMARS)、Samy Essa 講師 (当時) によって招聘された University of Twente (オランダ) の Department of Finance and Accounting の主催する研究セミナーにおける発表、University of Exeter (イギリス) における John Burns 教授と Stephen Jollands 講師との議論を踏まえて、論文を推敲した結果、American Accounting Association の発行する *Journal of Management Accounting Research* 誌に 2018 年 1 月に受理された。本論文の概要は以下のとおりである。

私たちは、企業の管理会計情報がどのように企業間契約の設計に影響を与えるかについて検討する。私たちは、全般的な会計情報によって、(契約問題の包括性や契約条項の詳細性で測定される) より完備的な契約を、企業がサプライヤーと結ぶことができるという推論を立てた。サプライヤー関係の管理についての日本の製造業企業に関する質問票データは、全般的な管理会計情報が、より包括的かつ詳細な契約を開発することを可能にするという予測を支持した。またこれらの契約は、取引パートナー間による非公式な合意を追加的に必要とはしない。これらの結果は、よりよい会計情報がより完備的な契約を可能にするという考え方と一致する。

第二に、企業を取り巻く環境の不確実性がリスクマネジメント、および、業績管理システムに与える影響に関するプロジェクトである。具体的には、Vrije Universiteit Amsterdam 滞在中に、Dekker 教授、坂口教授、Eelke Wiersma 准教授 (Vrije Universiteit Amsterdam) とともに、分析フレームワークの設定、データ収集および分析を行い、初期のワーキングペーパーである “All roads leads to Rome? On the overlap and differences between risk management and management control” を執筆した。本論文については、Vrije Universiteit の department of Accounting が主催する ARCA セミナー、Paola van Veen-Dirks 教授によって招聘された Rijks Universiteit Groningen (オランダ) の Accounting Department の主催する研究セミナーにおいて発表した。在外研究終了後の

2018年5月にも European Accounting Association の Annual Congress にて発表しており、現在も国際学術雑誌における受理を目指して論文の推敲を重ねている。

第三に、ヨーロッパにおける企業実践に関する調査プロジェクトである。Vrije Universiteit Amsterdam 滞在中、ヨーロッパを統括する日系子会社に対するインタビュー調査を重ねた。具体的には、オランダに存在する日系子会社の管理会計担当者、および、イギリスに存在する日系子会社の上級管理者に対するインタビューを行い、現在テープ起こしを行っている。これらの調査結果は、わが国の学術雑誌に投稿する予定である。

以上が在外研究成果の概要である。当初は、長期的な観点から、世界の学術的潮流および企業実践について把握することを主目的としていたが、それにとどまらず、管理会計領域において有力な国際学術雑誌である *Management Accounting Research* 誌や *Journal of Management Accounting Research* 誌に論文を掲載するなど、積極的に世界に対して組織間管理会計に関する研究成果を発信することができた。さらに、University of Melbourne ならびに Vrije Universiteit Amsterdam を中心とした研究ネットワークの拡げることや、新たな共同研究プロジェクトを開発することができたことにより、将来の研究基盤を構築することができた。